

基本的な感染防止対策

新型コロナウイルス感染症の特徴

- ・ヒトコロナウイルス SARS-CoV-2（新型コロナウイルス）による感染症であり、風邪のような症状（発熱、呼吸器症状、倦怠感、頭痛、消化器症状、鼻汁、味覚異常、嗅覚異常等の症状）が認められる。
- ・症状が現れるまでの期間（**潜伏期間**）は**5日から14日**とされているが、オミクロン株では潜伏期間が短く、伝播性（うつりやすさ）が強いという報告がある。
- ・**症状が出る2日前から、ウイルスの排出があり**周りの人に感染を拡げていく。
- ・感染経路は、せき、くしゃみ、会話等のときに排出される飛沫やエアロゾルの吸入、接触感染等が考えられており、オミクロン株では飛沫や**換気の悪い場所**でのエアロゾルによる感染が多い。
- ・ワクチン接種の進展により、感染者や重症者は抑えられると期待され、オミクロン株対応ワクチンを接種することで、従来型ワクチンを上回る重症化予防効果、発症予防効果や感染予防効果があるほか、今後の変異株に対して効果が期待されるため、**ワクチン接種をおこなうことが重要**である。

基本的な感染対策

- 「**三つの密***」の回避 ※、「**人と人の距離（フィジカルディスタンス）の確保**」、「**手洗い等の手指衛生**」、「**換気**」、「**場面に応じたマスクの着用**」、が基本である。

- ※ 三つの密 ①密閉空間（換気の悪い密閉空間）、
②密集場所（多くの人が密集している）
③密接場面（互いに手を伸ばしたら手が届く距離での会話や発声が行われる）

という3つの条件の回避。

- 「**マスクの着用**」を推奨する場面：

マスクは不織布のものを推奨、夏場は熱中症予防に注意

- ・ 屋内において、他者と身体的距離（2m以上を目安）がとれない場合
- ・ もしくは他者と距離がとれるが会話を行う場合
- ・ 屋外において他者と距離がとれず会話を行う場合
- ・ 高齢者等との面会時や病院内など、重症化 リスクの高い者と接する場合

- **マスク着用は必要ないと考えられる場面：**

- ・ 屋内において他者と身体的距離がとれて会話をほとんど行わない場合
- ・ 屋外において、他者と身体的距離が確保できる場合
- ・ 他者と距離がとれない場合であっても会話をほとんど行わない場合

- **個人の抵抗力を上げる。**

- ・ ワクチン接種：特に5類感染症となると、ワクチン接種は自費でおこなわなければならない。
有料になることが予定されているため、早期に接種を済ませておくことが重要である。

- **日常的な健康観察（毎日健康チェックをしてから登校する）・症状があるときは登校しない。**

発熱や風邪症状などに注意を払い、自分の健康状態を把握する。

症状がある場合等の対応：症状がある者、新型コロナウイルス感染症の検査陽性の者、同居家族に陽性者がいる者は、周囲の者に感染を広げないため、外出を控える。通院等やむを得ず外出をする時には、人混みは避け、マスクを着用する。